

7の1 (第二次 第1時) TRY1 Pepper にしゃべらせよう

事前準備	<ul style="list-style-type: none"> 各チームに Pepper、PC、ボックスカード、ホワイトボード、ワークシートを配布する。 PCは Choregraphe を起動し、Pepper と接続しておく。 Pepper のオートノマスライフは OFF にし、STAND 姿勢にしておく。 	
本時の目標	プログラミング概念を理解し、Choregraphe のルールに従い Pepper を指示通りしゃべらせることができる。	
学習活動	教師の働きかけ	学びの姿・学習評価
<p>○今日の学習内容について知る (Pepper に言葉をしゃべらせるプログラムの作成方法を学ぶ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今日は Pepper に言葉をしゃべらせるプログラムについて学びます。 身の回りの機械で、言葉で説明してくれる機械はありますか。 言葉でしゃべることでどんなよさがありますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活の中から連想し、チームで考えを共有している。 <p>【課題設定の力】 (行動の観察・発表)</p>
<p>◇基本課題 (Pepper に「こんにちは」以外の言葉をしゃべらせてみよう) に取り組もう</p>		
<p>【基本課題】 ○プログラムをつくる</p> <p>○プログラムを試す</p>	<ul style="list-style-type: none"> しゃべらせるプログラムをつくるには、次のボックスを使います。 左下のボックスライブラリから「Set Language」と「Say」を選びます。 それぞれのボックスの入出力コネクタをつなぎます。 「Set Language」の左下のプロパティをクリックして、言語を Japanese に変えます。 「Say」の左下のプロパティをクリックして、しゃべらせる言葉「今日はいい天気です」を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> プログラムをつくり終えたら、プログラムを実行してみましょう。 実行は、ツールバーにある「アップロードして再生(緑の三角)」をクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> プログラムは実行されましたか。 (実行されない場合は状況を確認し、補助する。) 声の高さや速さを変えてやってみましょう。 言葉を変えて、同じようにしゃべらせてみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの一部を変更するだけで、しゃべる内容や話し方が変わること気づいている。 <p>【情報活用の力】 (行動の観察)</p>
<p>◇発展課題 (Pepper に、プロジェクト学習でのテーマに関する話題をしゃべらせてみよう) にチャレンジしよう</p>		
<p>【発展課題】 ○プログラムを工夫し、改善する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 選択型プロジェクト学習でのテーマや活動予定についてしゃべらせましょう。 Text の幅が狭いときはプロパティウインドを横に広げましょう。 「Say」を増やして、どんどん横につなぐこともできます。いろいろと工夫して、しっかりしゃべらせるようにしましょう。 つくったプログラムは保存しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分達のテーマが聞き手にわかりやすく伝わるための工夫ができています <p>【社会参画の力】 (行動の観察・発表)</p>
<p>◇プログラムを発表しよう</p>		
○まとめをする	<ul style="list-style-type: none"> つくったプログラムを発表し、共有してみましょう。 今日の学習を振り返り、学んだこと・考えたことを共有しましょう。 	